



大阪事務所は OBP（京橋）から船場（淀屋橋）へ（本文中に関連記事があります）

目次 / contents

ごあいさつ

- 次の発展に向けて、新たな経営体制を確立し、大阪事務所を移転しました / 森脇宏 ②
- 大阪事務所は OBP（京橋）から船場（淀屋橋）へ / 中塚一 ③

特集「hello 船場。」

- 船場をまちあるきしました！ / 松下藍子 ④
- うまいもの通信「船場ランチ探検団」 ⑥
- 「聖地」船場でスパイスカレー
- 船場でアジアを感じるお店
- 鯛茶漬〜ごま醤油薫る鯛を艶々の土鍋飯に載せ、熱々の出汁をかけてかっ食らう
- 幸せをかみしめるサンドイッチ専門店

ひと・まち・地域

- 認知症ケアパス作成しました / 渡邊美穂・廣部出 ⑧

きんきょう

- 若江岩田きらり商店街「ぼくも、わたしもお店屋さん」が開催されました / 高田剛司・絹原一寛 ⑨
- フォーラム「“起業”から関西の経済再生を考える」が開催されました / 高田剛司 ⑩
- 伝承譜その3 船場と適塾―“ARPA.O”への道程 / 三輪泰司

まちかど

- 事務所周辺さんぽ「適塾」 / 塗師木伸介・樋口彩子・増見康平・中井翔太 ⑫





ごあいさつ

次の発展に向けて、新たな経営体制を確立し、

大阪事務所を移転しました

平成28年7月
代表取締役社長 森脇宏

さる6月末の株主総会において、新たな経営体制を確立しました。また、7月には大阪事務所の人員増等に対応してオフィスを移転しましたので、あわせてご報告いたします。

新たな経営体制の確立について

4年前の経営体制の刷新以降、着実な前進を積み重ね、社内エンパワーメントも高まってきました。さらに、来年に設立50周年を迎え、次の50年にむけた礎を強化することが求められています。こうした状況を踏まえ、次の発展に向けた新陳代謝を図っていくため、新たな経営体制を確立しました。

具体的な体制は下記のとおりで、新幹部の登用に伴って、執行役員制度を導入しました。また、来年の設立50周年記念事業は、一過性のイベントだけで終わらせず、より社会に貢献するアルパックに改革していくことを中心に構築する予定です。引き続きご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

【取締役】

杉原 五郎 代表取締役会長

森脇 宏 代表取締役社長

堀口 浩司 副社長、東京事務所長、名古屋事務所長

中塚 一 副社長、大阪事務所長

松本 明 京都事務所長

高坂 憲治 建築設計計画担当

【監査役】

柳沢 厚

【執行役員】

畑中 直樹 大阪事務所副所長、環境担当

高野 隆嗣 地域産業担当

柳井 正義 総務部長、企画政策推進室長

坂井 信行 都市計画担当

原田 弘之 6次産業担当

岡本 壮平 地域計画担当

【名誉会長ほか】

三輪 泰司 名誉会長・顧問

金井 萬造 相談役（非常勤）

馬場 正哲 主席研究監（常勤）

尾関 利勝 中部総括技監（非常勤）

大阪事務所の移転について

1990年のOBP（大阪ビジネスパーク）への移転以降、大阪事務所は分野と地域を広げ、スタッフを充実してきましたが、フロア不足の解消を機に大阪の都心である船場に移転しました。

船場は、江戸時代に「天下の貨、七分は浪華にあり、浪華の貨、七分は舟中にあり」と言われた頃から大阪の中心地で、今日も様々なまちづくり活動が活発に行われており、移転を契機に、より積極的にこれらの活動に関わっていきたいと思います。

また、隣接する適塾は、緒方洪庵が開き、福沢諭吉をはじめ、多くの優れた人材を輩出したことで有名です。適塾の気風に学び、時代をリードする人材を育成していきたいと思います。

なお、本社・京都事務所もビル側の要請で、同時期に6階から3階へ移り、あわせてリニューアルしました。こちらも引き続き、よろしくお願いいたします。



〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7

日本生命今橋ビル10階

TEL 06-6205-3600 FAX 06-6205-3601

※淀屋橋駅から徒歩で2分、北浜駅から徒歩5分程度



ごあいさつ

大阪事務所は OBP（京橋）から船場（淀屋橋）へ

大阪事務所長 中塚一

「水都大阪」の事務所として

大阪事務所は、このたびOBP（大阪ビジネスパーク）から船場に移転しました。

天満橋で約12年、京橋（OBP）で約25年、そして淀屋橋（船場）へと、水都大阪の事務所らしく川沿いでお世話になっています。

働き方を再考する機会として

大阪事務所は、この春に総勢約70名の規模となり事務所スペースが手狭になりました。さらに業務を取り巻く社会経済環境が大きく変化し、ワークライフバランスについての所員の価値観もますます多様化していく中で、アルパックにおける「働き方」を根本的に再考していく機会として、約1年前に移転実行委員会を立ち上げ議論を重ねてきました。

今回の移転を、単に空間（スペース）の問題として捉えず、働き方（ワークスタイル、ライフスタイル）とそれを支える環境（オフィススタイル）や組織のあり方（アソシエイト）を含め、自由に意見交換しながら、新しい事務所のあり方と働き方を考える機会としました。

「アルパック・コモン・プレイス」の創造

事務所移転のコンセプトは、「様々なコミュニケーションとコラボレーションを創発するアルパック・コモン・プレイス」！

そのために、以下の基本方針に基づき、移転を実践しました。

1. 様々なコミュニケーションを創発する
 - ① 所員同士、所員と外部事務所・委託者、さらにアルパックのファン同士の様々な交流
 - ② 「まちのサロン」のように様々な人が寄ってきてくれる場所
 - ③ まち・情報との交流（まちなか感、まち場感を感じられる場所）
2. 様々なコラボレーションを創発する
 - ① チーム・グループ間、事務所間、さらに外部専門家との垣根を越えた協働
 - ② コラボレーション効果を高める個人のクリエイティビティを発揮できる環境

オフィスプランニングの特徴

今回の新オフィスでは個人のデスクを1,800mmから1,400mmとコンパクトにし、背後に2つずつあった棚も1つにするなど執務スペースを縮小し、玄関部分にはミーティング&ライブラリースペースを設け、アルパックで所有している建築やまちづくりに関する書籍なども置ける書棚も設置しています。また、大阪中央公会堂が見える北西角には所員やアルバイターの休憩・交流スペースとしてコミュニケーション&ラウンジスペースを設けています。ここにも所員同士で共有したい書籍などを置く書架を置きました。街的にいえばプライベートスペースを縮小し、セミパブリックスペースやパブリックスペースを充実し、みんなでシェアしようという考え方です。

移転後に、これらのスペースを活用し、アルパックらしい様々なセミナーや研究会等を、皆様と共に開催していきたいと考えております。

「船場」の都市格にふさわしい事務所に

「船場」という歴史ある地の息吹を感じながら、新たな出会いを事務所の資産（人もうけ）として、様々なコミュニケーションとコラボレーションを創発し、創設50年から次の50年に向け、次の時代を切り開くアルパックだからできることに挑戦していきたいと存じます。

是非、お近くにお立ち寄りの際には、気軽にお越し下さい。





船場をまちあるきしました！

hello 船場.

都市・地域プランニンググループ／松下藍子

大阪事務所が移転してきた「船場」は大阪の都心中の都心、大阪が世界に誇る町人文化が花開いた土地です。地域にこだわるアルパックは、もちろん事務所のお膝元にもこだわります。

本号の特集では「船場」の誌上まちあるきをはじめ、うまいものやまちかどなど、アルパックの所員が見つけた「船場」の魅力を読者のみなさんにご紹介します。

hello 船場. 新参者ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

ニュースレター編集委員会

江戸時代から大阪の経済・文化の中心地であった船場。近代建築など歴史ある建物が多く残り、また、近年の水辺の環境を活かした取り組みなど見所がたくさんある場所ですが、船場新参者として、まずは周辺をまちあるきしました。

まず船場の歴史を振り返り。船場のまちの礎を築いたのは豊臣秀吉です。秀吉の晩年の慶長3年（1598）、大阪城の守りを更に強固なものにするために、二の丸の外側に大名屋敷など家臣の邸宅を配置し、二重の守りとする計画が立てられました。当時、二の丸の外側には多くの町家が並んでいたのですが、大名屋敷を配置するために、これらの町屋が移動させられることになりました。その移住先として開発されたのが船場です。

船場は、40間四方の碁盤目状の整然とした区割りに、東西方向に太閤下水が貫通した背割り線を持つ構成で、間口が狭く奥行きが長い町屋が建ち並んでいました。当時の建物は戦災などを経てほとんど

残っていませんが、区割りは今もほとんど変わらずに受け継がれています。

まちあるきは淀屋橋駅を降りてすぐの中央公会堂からスタートしました。中央公会堂は大正7年（1918）にいわずと知れた辰野金吾の設計により建設された建物です。一部がショップやレストランとなっており、自由に出入りすることができます。水辺の環境を活かして、周辺は遊歩道や公園など親水を感じる空間が整備されています。

次に事務所の裏にある適塾へ。適塾は、幕末における洋学研究者の第一人者である緒方洪庵が開いた学塾であり、江戸時代の町屋の姿を現在に留めるとともに、蘭学塾の遺構として史跡・重要文化財に指定されています。中は一般公開されていて、書物の展示や建物の解説などを見ながら見学することができます。適塾横の愛珠幼稚園もまた日本最古の木造園舎であり、現役の園舎として非常に貴重な建物ですが、残念ながら現在は改修中で外からしか様子を



中央公会堂の外観



栢檀木橋（せんだんのきばし）より東を眺めた風景



適塾内部：客座敷から前栽への眺め



三休橋筋：奥に見えるのが近代建築の高麗橋ビルディングと浪花教会

何うことはできませんでした。

続いて三休橋筋を通り南へ向かいました。御堂筋と堺筋の中央を通り、周辺には近代建築や昔ながらの佇まいを残した建物が多く残っています。ちなみに大阪は東西を「通り」、南北を「筋」と呼ぶことが多いですが、このルールを決めたのも秀吉だと言われています。現在は筋の方がなじみがあるかもしれませんが、当時のメインストリートは東西の通りであり、筋は裏道だったようです。

三休橋筋を逸れて少し奥に行くと、個性的な外観がひときわ目を引く近代建築の芝川ビルがあります。建物自体を見学するだけでもおもしろいのですが、私のおすすめは地下の金庫室をコンバージョンしたカフェ。オーナー1人でやっている静かな雰囲気がお気に入りです。船場には多くの近代建築が残っていますが、こういった歴史ある建築物の空間



芝川ビルの外観



ビルの狭間にある少彦名神社

的魅力に価値を感じた人たちが新たに入り、活用されている事例が多くあります。

続いて薬の町として有名な道修町通りへ。今も通りを見通すと、製薬会社や薬品会社が多いことがわかります。ビルの狭間にある少彦名神社は、薬の神様として地元では長く親しまれており、裏手にある青山ビルとともに、オフィス街の中で緑を感じるスポットとなっています。

さらに南の本町通りを越えたところの井池筋まで足を運びました。ここは昔、井池という池があったことからそう筋の名前がつけられたようです。昔は繊維問屋が並び、繊維卸業の中心として栄えたまちですが、今は周辺のオフィス街としての発展に合わせて、飲食店が多く建ち並ぶ商店街となっています。井池は今は埋め立てられ公園に変わり、その記憶を留めるものは名前のみとなっています。

盛りだくさんとなりましたが、今回はこれだけの場所を少しずつ立ち寄って、約3時間のまちあるきになりました。このようにぶらぶら歩きながら気になるところに立ち寄るのもあり、じっくり一つの施設を楽しむのもあり、水上ボートで周遊し水辺からの景色を楽しむのもあり、それぞれの楽しみ方ができる場所です。是非一度訪れてみてください。



井池ストリート

うまいもの通信「船場ランチ探検団」



「聖地」船場でスパイスカレーを

インド、ネパール、パキスタン、タイ、バングラディッシュ、イギリス、フランス、アフリカ、オセアニア、そして日本。カレーは世界で愛される料理の一つです。実は、船場は知る人ぞ知るカレーの聖地で、様々なスタイルの有名カレー店がひしめいています。その中の一つ、行列ができるスパイスカレー店「Columbia 8（コロンビアエイト）」に行ってきました。

カウンター席のみの10人も入れればいっぱいになるこじんまりとしたお店は、本物のスパイスカレーを愛する客で常に賑わっています。カウンターの中では、ブレンドされた香辛料を次から次へと、層ができるほど大量に振りかける調理風景が展開されます。オーナーによると30種類以上の香辛料を使用しているそうです。カレーの風味をひき立てるシシトウを左手に持って、カレーと交互に食べるのがポイントのようで、いい意味で期待を裏切るその旨さは癖になります。

さて、カレーに使用されている香辛料は漢方薬としても重用されてきました。お店のある道修町は昔から薬問屋のまちです。そんな薬のまちにはスパイシーなカレーが似合います。「聖地」船場のカレー巡礼。カレーをこよなく愛するあなたもぜひお試しあれ！（松下、中村、坂井）

Columbia 8（コロンビアエイト）

大阪市中央区道修町1-3-3 エビス道修町ビル2F
TEL：06-6203-7788



船場でアジアを感じるお店

堺筋沿いから少し入った所にある国登録有形文化財『青山ビル』の中にアジアの空気を感じるお店があります。しかし、普通に青山ビルに入ってしまうのはこのお店を見つけることは出来ません。ビルの北東角にある隙間のような廊下を進んでいった奥にそのお店「タイ・ラオス料理 チャイラオ」があります。アプローチ部分からワクワクさせてくれるお店です。所在地は青山ビル別館となっているので、青山ビルの一部ではあるようです。

店内はタイ、ラオス国旗やビール瓶をはじめ、現地を感じさせるアイテムに囲まれたカウンターのみのお店となっています。屋外（廊下）に出るとテーブル席が一卓あり、気候の良い日、若しくは蒸し暑い日に利用すると現地の気分をより体感できるのではないのでしょうか。

タイ料理とラオス料理の線引きは難しいのかもしれませんが、ランチはガバオライス、パット・タイ（タイの焼きそば）、レッドカレー、グリーンカレーとタイ料理がメインの様子。味も辛さ加減が丁度良くとても美味しかったです。夜のメニューにはもち米の料理など、両国の料理を楽しむことが出来ます。みなさまもお昼休みや仕事の帰りに少しの間アジアの雰囲気を感じてみるのはいかがでしょうか。（樋口、中井、増見、塗師木）

ChaiLao（チャイラオ）

大阪市中央区伏見町2-2-6 青山ビル別館
TEL：06-6231-8494





鯛茶漬け～ごま醤油薫る鯛を艶々の土鍋飯に載せ、熱々の出汁をかけてかっ食らう

お店に入ると、どっしりとした杉板のカウンターと、白い調理服を着たさわやかな笑顔の大将が迎えてくれます。

お昼の定食は、鯛茶漬け。鯛は、ごまと醤油のたれにしっかり漬けられています。土鍋に入って出てきた炊き立てのご飯は、北海道産のゆめぴりか。ツヤツヤしていて、一粒一粒ふっくらとしています。えのきや、ほうれんそうのお浸し、ポテトサラダなどの小鉢もついています。

まず一膳目は、鯛をご飯に載せ、土鍋飯の甘味と食感、ごまの風味を楽しみながらいただきます。二膳目は、ご飯をお代わりして鯛と薬味を載せ、だし汁をかけて鯛茶漬けにして楽しめます。最後はデザートもあり。

あっさりヘルシーなお料理なので、お昼の時間帯は特に女性のお客さんに人気です。また夜には、小宴も楽しめます。新事務所から2分とすぐ近くにあり、おすすめのお店です。(廣部、長沢、岡崎、依藤)

よどやばし 燐 (はな)

大阪市中央区北浜3丁目2-16

TEL : 06-7161-5035



幸せをかみしめるサンドイッチ専門店

きれいに花で飾られたエントランスを通って店内に入ると、ちょっとレトロで落ち着いた空間が広がっていました。新事務所から5～6分ほど歩いたところにウィンナーコーヒーとサンドイッチが人気の「蝸牛庵」があります。サンドイッチのメニューは24種類。定番BLTサンドはもちろん明太子ベーコンサンドセットやとり玉サンドなど、他では味わえ

ないメニューが豊富にあって、かなり迷います。生ハムサンドは、中に生ハムがはさんであるのではなく、サンドイッチを生ハムでくるんであるという斬新なビジュアルで、あっさり系かと思いきや、中にはチーズときゅうりとたっぷりマヨネーズの濃厚な味でボリュームも満点です。

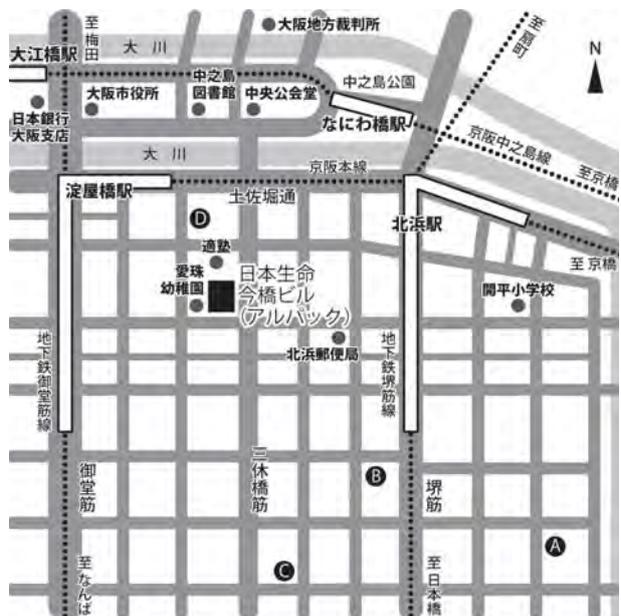
苦手な野菜があれば抜いてくれるそうです。サンドイッチに添えられたヨーグルトとポテトチップが食感や味の広がりをもたせてくれるのも人気の秘密かもしれません。

「女の子が幸せになれるランチ」というサイトで紹介されているだけあって、店内は女子率8割ほどです。席はカウンター席とボックス席で計50席ほど。ランチタイムは相席もやむなしです。少し時間をずらせばゆっくりと時間を過ごせるかもしれません。(中塚、武藤、鮎子田)

蝸牛庵 (かぎゅうあん)

大阪市中央区平野町2-5-1

TEL : 06-6222-4511



A : Columbia8 B : ChaiLao
C : 蝸牛庵 D : よどやばし 燐



若江岩田きらり商店街「ぼくも、わたしもお店屋さん」が開催されました

地域産業イノベーショングループ／高田副司
都市・地域プランニンググループ／絹原一寛

ニュースレター188号(2014年11月)では、東大阪市の若江岩田エリアで、若手の商店主有志が結成した「きらりプロジェクト」の取組を紹介しました。今回はその続編です。子育て世代向けの「えがお塾」は、毎月様々な業種の地域店主が講師役で登場し、この7月で第23回を迎えました。「継続は力なり」。地域での認知度も広がり、また参加する店舗も増えてきました。**きらりプロジェクト初の大型イベント**

この2年間、えがお塾の開催を軸にして、既存商店街のイベントに参加したり、コラボ商品を販売するなど独自の取組を進めながら、組織の規約を作り、会費を設定して体制も少しずつ整えてきました。そして7月3日(日)には、きらりプロジェクト初の大型イベント「ぼくも、わたしもお店屋さん」をメンバー



お店屋さんを頑張る姿に、ママもえがおで撮影自らが発案、企画し、準備・調整、広報を分担しながら、当日を迎えました。

このイベントの目的は、地域に根ざしたお店のを知ってもらい、お店のファンになってもらうことです。また、小学生の子どもたちにとって、将来、お店屋さんになりたいという気持ちになってもらったり、若江岩田での想い出づくりにつながれば、ということも意識して取り組まれました。たとえ今すぐ店の売上げに直結しなくても、地に足の着いたイベントを企画し、実行することで、参加する店舗同士の輪も広がっていきという意図で実施されたものです。

当日は約600名もの参加で大盛況

会場は、天候の心配が無いように、駅前の建物6階にある男女共同参画センターのフロアを半分以上借り切りました。

プロジェクトメンバーの店も含めて16店舗・団体の参加により、お店屋さんやアナウンサーの仕事体験のほか、ゲームやクラフトハガキづくり、英会話やサイエンス実験教室、そして美味しい食べものや飲みものを買いたい、子どもたちのための「一日限定商店街」が出現しました。

お店屋さん体験の「求人票」を求めて、朝10時開店の一時間前から行列が出来はじめ、オープン前からんやわんや。それでも、近畿大学の学生さんや枚岡樟風高校の生徒さんたちにもボランティアスタッフとして手伝ってもらいながら何とか乗り切り、事故もなく、みんな「えがお」でイベントを終えることができました。



アナウンサーを体験、本格的!

参加店舗の反応も上々、会員も増加

イベント終了後、参加店舗からは「参加して良かった」との感想や「次回はいつですか」との問い合わせを頂いています。今回の取り組みを通じて「きらりプロジェクト」に入会を希望する店主さんもおられ、店舗同士の「つながり」がより一層強まりました。

会場をお借りしたイコーラムさんからも「こんなに子どもたちで賑やかになったのは初めて」と喜んで頂いたり、近畿大学の先生からも「学生たちにとってかけがえのない経験になった」とのお言葉を頂いたり。各方面から「良かった」との声を頂戴しており、初の大型イベントとしては大成功だったのではないかと思います。

これまで一生懸命準備に頑張ってきたメンバーの顔に充実感、達成感がにじんでおり、その様子を見て私たちも嬉しい気持ちになりました。これが大きな自信となって、さらにもっと活動へと展開していくのが非常に楽しみです。

商店街を元気にする「つながり」

「きらりプロジェクト」のメンバーは「若江岩田を何とか盛り上げたい」と地元愛にあふれ、いろんな人とのつながりを大切にしながら活動を進めています。こうした想いがさらに浸透して地域と商店街とが繋がっていくことが、商店街のこれからの姿なのではと感じます。さらに世代を超えて輪が広がり、「えがお」が絶えない若江岩田にしていくため、これからもお手伝いしていければと考えます。



きんきょう

フォーラム「“起業”から 関西の経済再生を考える」 が開催されました

地域産業イノベーション
グループ／高田剛司

アルパックが事務局をしている（一社）日本計画行政学会関西支部では、毎年1回、支部大会を開催しています。今年度は7月2日（土）に市制100周年を迎えた尼崎市を会場として、（公財）尼崎地域産業活性化機構と共催で「起業」をテーマに実施し、前半は起業支援の事例報告として3つの地域の事例が紹介されました。

1つ目は、滋賀県の創業支援の取組について滋賀県立大学の西岡コーディネーターから紹介されました。起業の段階によって支援内容を分け、「プレ」⇒「メイン」⇒「ポスト」というチェーン（鎖）の中で事業を定着させる仕組みや、起業家と専門家をつなぐ場としての「ビジネスカフェ」が県内各地で開催されている事例が紹介されました。また、インキュベーションマネージャーの養成やネットワークづくりにも注力し、起業支援事業が一部分だけ、あるいは単発で終わることなく続けられる仕組みが構築されていました。

2つ目は、神戸市のスタートアップ環境構築に関する新事業について、神戸市の多名部課長から紹介されました。昨年度はシリコンバレーへ大学生や高校生など若手人材を派遣するプログラムを実施。今年度はシリコンバレーのプログラムを日本で受けられる事業として神戸で募集し、事業計画はもちろん、資金面やオフィス、メンタルのバックアップも受けられる環境を整え、今まさに進行中の事業として紹介



されました。

3つ目は、昨年度に開設された尼崎創業支援オフィス ABiZ（アビーズ）の取組について尼崎市の岸本経済部長から紹介されました。尼崎市では、ものづくり系のインキュベーションセンターが20年以上前に開設されていますが、今回は業種を問わず、多様な交流も意識した空間と支援体制が整えられたインキュベーションオフィスが整備されました。「連携」をキーワードに、行政だけでなく、市内の経済団体や金融機関などあらゆる支援組織が「よってたかって」支援するところが、尼崎らしさとして紹介されました。

後半は、（公財）尼崎地域産業活性化機構の加藤理事長をコーディネーターに3名の事例報告者がパネリストとして登壇し、会場の参加者も交えたパネルディスカッションが行われました。

過去にも「ベンチャー支援」については、政策的に、いわば官製のブームとして何度かその波が来ました。しかし、私が思うには、これまでと大きく違う環境の変化として、インターネット通信が整い、個人での情報発信やネットワークづくりが圧倒的に行いやすくなってきたこと、また、民間でも「シェアオフィス」が供給され、本人さえその気になれば容易に異業種の人と交流できる「場」も増え、情報を入手しやすくなっていることが挙げられます。そのような民間の動きも踏まえ、関西の経済再生を考える上で、行政としても新しい事業者をどのように増やしていくのかは、今後ますます重要な視点になるでしょう。今回のフォーラムのテーマは関心も高く、120名以上もの参加があり

ました。参加者にとっても大いに刺激となるフォーラムになったのではないかと思います。

伝承譜その3 船場と適塾 — “ARPA.O” への道程

名誉会長／三輪泰司

地域の計画づくりをなりわいとしていて、自らの生産活動の場所にこだわるのは当然です。昨年9月7日、全社研修会の休憩時間に適塾から綿業会館まで歩いてみました。大阪事務所の「船場」への移転。時あたかも創立50周年が近づいています。京都本社事務所の移動と併せ、めでたいことです。

シンクとアクト 地域社会奉仕 と高次広域活動

大阪事務所が産声を上げたのは、1972年、創立5年目、場所は千里中央ビルの地階でした。市場が育っていないこの時期に、環境部門を創りました。1年で西中島へ、1978年に天満橋へと“南下”し、1990年7月にOBPへ移って26年になります。

本社・京都事務所は、吉田・下鴨を経て、創立7年目の1974年3月、四条に場所を構えることが出来ました。それぞれに自らのアイデンティティと居場所を探求してきました。

1991年の「アルパック25周年誌」は“人・まち・地域の未来をめざして”と言っていますが、“足元”の地域社会へのまなざしには事務所によって違いがあります。それは各事務所と本社のトップの活動力によって決まり、全社の経営組織の在り方に投影されます。

1977年創設の九州事務所は“天神”にこだわり、地元博多に奉仕し、1982年創設の名古屋事務所

は“栄”にこだわり、まちの町医者に徹しました。それ故にこそ、高次広域的な使命も担ってこれたアルパックの不思議な魅力を解くカギが大阪事務所にも潜んでいます。シンク・グローバリー、アクト・ローカーです。

1990年まで、市場規模が小さいはずの京都事務所が所員数・業務量とも大阪事務所の2倍以上であった要因は、ゼミナールハウス、パルスプラザから保育園の建築に加え、グローバルなテーマ、関西学研都市建設の調査計画です。これは直ぐに人間ごとの技術移転で、九州・名古屋へ展開しました。関西学研都市構想が事務所の四条立地と密接な関係にあったのはなぜでしょうか。**市民社会への奉仕 地域の歴史的文化的に根差す**

四条繁栄会商店街は銀座と並ぶ全国銘柄の中心商店街で、八坂神社の門前町です。シャンゼリゼと並ぶグローバル銘柄です。商店街振興組合という法人組織も持っています。

「京都地域商業近代化計画」は自然な成り行きとして、「国際交流会館」「大学のまち・京都21プラン」等、全国的課題をリードする施策を提案・推進するシンクタンク・コンサルタントの使命を担えたのは、一義的には京都市との「協働」であり、京都の中心にある会議室での議論でなければならなかったのです。奥田東先生が、しょっちゅう京都事務所へ来られ、構想を練っておかれたのは、ここでなければならなかったのです。ちょっと東へ行けば、祇園・先斗町があったからでもあります。要するに、歴史的文化的の持つ不思議な磁力というしかありません。

大阪は神戸とともに「海」に面し、港湾があります。1980年、交通・港湾グループが大阪事務所に集まりました。海は世界と繋がっています。五港建から三港建へ、北海道から沖縄まで、パワフルなリーダーが、港湾再開発、ポートルネッサンスの「柱」を建てました。

沖縄県や沖縄開発庁の方とお会いして、海もない「京都」に期待されていることを知り、京都で会議をセットしました。“肝胆相照らす”のは、首里城・京都御所の奥に潜む「誇り」であり、庶民の感性や教養なのだと思います。

OBPは永く軍用地、爆撃跡地で、村のなごりも町衆の息吹もなく、ビッグビジネスの集まりになってきました。大阪事務所長は、関西経済界での足場がありませんでした。しかし、ビッグビジネスも市民社会との連携を進めます。東京の「大丸有」もそうです。OBPも変わるでしょう。

経済と文化を担ってきた、なにわの旦那衆・ご寮さんが元気でやって頂きたいです。大阪は京都と違ってワンセンター型ではありませんが、やはり芯は「船場・島の内」です。今では薬屋さんもビル化して様子が変わっていますが、これから変わるでしょう。

まちづくりへの奉仕 知恵と産業とお祭り

大阪は学会、職能団体の支部機能を持っています。京都・大阪の所員たちは、営々たる都市計画学会、建築家協会等での奉仕活動で存在を示してきました。

京都では商工会議所が知恵と産業を結んで、「知恵産業」に力を注いできました。まちづくりと知恵をくっつけるのも、私たちの得意とするところです。四条

繁栄会地区の地区計画は2003年7月12日でした。自分の住んでいるところ、働いているところで建築協定・地区計画を実行しないでえらそうに都市計画コンサルタントを称することはできないでしょう。高高度から眺めるような高次広域計画が、実効性を持つには、地上で、一軒一軒の寸法から形態まで詰める建築チームの方法を知ることです。

まちは研究者には実践的探求のフィールドです。昨今、祇園祭、天神祭はまちと大学を結ぶ舞台になっています。音・光・色、すべてあります。イメージーションの宝庫でしょう。そうすると東京は神田祭とこなっくちや。

適塾とチーム ライバル教育法の原理

OBの糸乗さんに、適塾の教育法を教わりました。兄弟子が弟弟子を教えるのです。緒方洪庵先生は、表に出ないで、困っているのを助けるのです。アルパックのチーム制は、適塾方式です。

実はこの教育方法は、祇園や先斗町など花街で芸妓・舞妓の教育で行われていました。更にそれは、宮家・公家の伝統的な女官教育法を真似ているのです。よきライバルをつくるのです。歳が近いと時には張り合って、やきもちを焼いたり、足を引っ張ったりします。その確執を超えて人格が作られていくのです。アルパックで言えば、若い人はまず身内、同僚の切磋琢磨からです。洪庵先生にあたるトッパー代表権者は、代表権者でなければできない役目を見つけ、実行してみせることです。

大阪事務所移転と創立50周年は、組織と個人の道程を振り返るよい機会です。



事務所周辺さんぽ「適塾」

建築プランニング・デザイングループ
／塗師木伸介・樋口彩子・増見康平
都市・地域プランニンググループ／中井翔太



新しいアルパック大阪事務所は、船場エリアにあります。船場という、町人文化の発祥地ですが、かつて秀吉が造成して以降、近代都市計画の分野においても大阪をリードしてきた地域です。現在も市内に点在する近代建築など魅力的な建築を活用・発信していく“生きた建築ミュージアム”の中心地となっており、まちづくりの熱が冷める気配はありません。

事務所の周りにも、歴史ある建物が点在しています。事務所の西隣には愛珠幼稚園があります。明治13年に創設され、大阪で一番歴史の長い現役保育園です（現在は耐震改修中）。事務所の北側には蘭学者・医者として知られる緒方洪庵が江戸時代後期に開い

た適塾があります。もともと上層階級の商家であったこの建物は、店舗棟1階の商業空間を学問所に、2階の物置を塾生生活空間に、そして奥の住居棟を洪庵一家の住居にと、うまく使い分けていたようです。

さっそく適塾に入ってみました。広い塾生大部屋で、中庭を見下ろす低い窓辺に腰掛けると、とても居心地がよく感じました。大部屋の柱には刀傷があり、当時の塾生の血気盛んぶりが思い起こされます。また、隣接するゾーフ部屋で一冊しかなかったドーフ・ハルマ（江戸時代後期に編纂された蘭和辞典）を共用しながら夜更けまで仲間とともに勉強に励んだとのこと。適塾といえば蘭方医

学の学び舎ですが、門下生には福沢諭吉を初め、多様な活躍をした偉人が多数います。一つの分野を起点に門下生の自由な関心のもと、関連する分野に“学び”を拡大していったスタイルはアルパックにも通じるものを感じました。

周辺を歩きながら、新しい事務所での生活を思い浮かべてみました。事務所は都心にありますが適塾の庭や中之島公園も近く、疲れたときは気分転換に散歩もできそうです。また少し歩くだけで、ランチにカフェに、飲み立ちに立ち寄ってみたいお店を見つけることができます。これから少しずつこのエリアを開拓していくのが楽しみです。

今後も船場のまちとともに新たな歴史を積み重ねて成長する事務所をつくっていきたいと思います。美味しいコーヒーを淹れますので、船場に來られた際は気軽にお立ち寄りください。



適塾大部屋から中庭を見下ろす

arpak アルパック(株)地域計画建築研究所

Architects Regional Planners & Associates · Kyoto

<http://www.arpak.co.jp> E-mail info@arpak.co.jp

ニュースレターはホームページからもご覧いただけます。



この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
kikitoペーパーを使用しています。

本 社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町 82

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所 〒541-0042 大阪市中央区今橋 3-1-7 日本生命今橋ビル 10F

TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601

名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F

TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

東京事務所 〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-5-11 スクエア九段ビル 1F

TEL(03)3288-0240 FAX(03)3288-0221

九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F

TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128